

# オンラインイベントで<sup>かくにん</sup>確認した<sup>こんちゅうるい</sup>昆虫類の<sup>かいせつ</sup>解説

7月15日に<sup>がっ</sup>実施したオンラインイベントで<sup>かくにん</sup>確認した<sup>こんちゅうるい</sup>昆虫類は29<sup>しゅるい</sup>種類でした。

NO.	<sup>しゅめい</sup> 種名	NO.	<sup>しゅめい</sup> 種名
1	アオドウガネ	16	チャバネアオカメムシ
2	アオバハゴロモ	17	ツヤコガネ
3	アカアシオアオカミキリ	18	トビケラのなかま
4	アミガサハゴロモ	19	ナミテントウ
5	イネホソミドリカスミカメ	20	ニイニイゼミ
6	エサキモンキツノカメムシ	21	ハエのなかま
7	オオヨコバイ	22	ハネカクシのなかま
8	カオジロヒゲナガゾウムシ	23	ヒゲナガカメムシ
9	カツオブシムシのなかま	24	ヒメカマキリモドキ
10	カナブン	25	ヒメカメノコテントウ
11	キイトンボ	26	フタホシアトキリゴミムシ
12	コガタスズメバチ	27	ベッコウハゴロモ
13	コフキコガネ	28	マガリケムシヒキ
14	コメツキムシのなかま	29	ヨコバイのなかま
15	シロテンハナムグリ		

かくにん こんちゅうるい しょうかい  
確認した昆虫類の紹介

○アオドウガネ

たいちょう 25mmくらい。たいしよく は、かがや きのある みどりいろ せいちゅう いろいろ こうようじゆ は、な を食べる。  
せいちゅう よる うご け にもよくと 飛んでくる。



○アオバハゴロモ

たいちょう 5.5~7mm。まわ りがうすべにいろ うすみどりいろ はね うつく こんちゅう じゆくがつ しる を  
す 吸い、よわ 弱らせることもある。ようちゅう しる いと のようなものに おお 覆われている。



○アカアシオオアオカミキリ

たいちょう 25~30mm とおおがた のカミキリムシ。あたま むね、かたい はね きんみどりいろ で、ひげやあし が  
せきかっしよく うつく 美しい。よる に、くすぎのじゆえき などにあつ 集まり、ひかり と  
赤褐色で美しい。夜に、クヌギの樹液などに集まり、光に飛んでくることがある。



○アミガサハゴロモ

体長10～13mm。体は、暗褐色～黒褐色。翅には細かいすじがあり、翅の端に白い模様がある。林のそばの下草やカシ類の葉の上で見られる。



○イネホソドリカスミカメ

体長4.5～6mm。カスミカメムシのなかまで、イネの汁を吸って弱らせる厄介者。体の色は黄緑色で、体型は細長い。ひげの根元に赤いストライプが3本ある。

<<写真無し>>

○エサキモンキツノカメムシ

体長10～14mm。背中にあるクリーム色のハートマークがポイント。雌が卵や幼虫を見守ることも特徴の一つ。雑木林にすんでいて、ミズキやハゼノキなどの汁を餌にする。



○オオヨコバイ

体長<sup>たいちよう</sup>8～10mm。黄緑色<sup>きみどりいろ</sup>をしたきれいなヨコバイで、翅<sup>はね</sup>には暗褐色<sup>あんかっしよく</sup>のはっきりしたすじがある。頭部<sup>とうぶ</sup>は幅<sup>はば</sup>広く、頭<sup>あたま</sup>の先<sup>さき</sup>に2つの黒い点<sup>くろくてん</sup>がある。



○カオジロヒゲナガゾウムシ

体長<sup>たいちよう</sup>7～9mm。暗灰色<sup>あんかいしよく</sup>の体に特徴<sup>からた</sup>的な白い模様<sup>とくちょうてき</sup>があり、顔<sup>しほ</sup>も白い。「ヒゲナガゾウムシ」と名<sup>な</sup>がついているが、雌雄<sup>しゆうとも</sup>共にひげはあまり長<sup>なが</sup>くならない。広葉樹<sup>こうようじゆ</sup>の枯れ木<sup>か</sup>やまき上<sup>まきじよう</sup>で見<sup>み</sup>られる。



○カナブン

体長<sup>たいちよう</sup>23～31mm。体<sup>からだ</sup>は銅色<sup>どういろ</sup>をしたものがほとんどだが、緑色<sup>みどりいろ</sup>のものなどもある。昼間<sup>ひるま</sup>でも動きまわる。雑木林<sup>そうきばやし</sup>で見<sup>み</sup>られ、成虫<sup>せいちゆう</sup>は、クヌギやコナラの樹液<sup>じゆえき</sup>に集<sup>あつ</sup>まる。



○キイトンボ

体長<sup>たいちよう</sup>35～46mm。きれいな<sup>きいろ</sup>黄色で、<sup>みくぶ</sup>腹部がやや<sup>みと</sup>太めのイトトンボ。<sup>へいち</sup>平地から<sup>ていざんち</sup>低山地の<sup>みずくさ</sup>水草がいっぱい<sup>は</sup>生えている<sup>いけ</sup>池や<sup>ぬま</sup>沼で見られる。まちの中<sup>なか</sup>でも、<sup>かんきよう</sup>環境がよい<sup>いけ</sup>池があれば見られる。



○コガタスズメバチ

体長<sup>たいちよう</sup>は、<sup>はたら</sup>働き蜂で 20～25mm、<sup>じよおうばち</sup>女王蜂で 30mm。<sup>なまえ</sup>名前に「<sup>こがた</sup>小型」とついているが、<sup>くら</sup>オオスズメバチと<sup>ちい</sup>比べたら<sup>ちい</sup>小さいというだけで、<sup>なか</sup>スズメバチの<sup>なかま</sup>なかまの中では<sup>おおがた</sup>大型である。



○コフキコガネ

体長<sup>たいちよう</sup>25～31mm。<sup>からだ</sup>体は<sup>ちやかしよく</sup>茶褐色で、<sup>しろ</sup>白い<sup>こな</sup>粉がおちたように<sup>み</sup>見え、<sup>はね</sup>翅は<sup>みじか</sup>短い<sup>け</sup>毛で<sup>おお</sup>覆われている。<sup>おす</sup>雄は、<sup>いちぶ</sup>ひげの一部が<sup>おお</sup>大きく<sup>はったつ</sup>発達する。<sup>よる</sup>夜になると<sup>ひかり</sup>光にも<sup>と</sup>飛んできくる。



○シロテンハナムグリ

体長<sup>たいちよう</sup>16～25mm。暗緑色<sup>あんりよくしよく</sup>～銅色<sup>どういろ</sup>に輝く<sup>かがや</sup>体に<sup>からだ</sup>、小さな白点<sup>ちい ぼくてん</sup>を散りばめたハナムグリのなかま。雑木林<sup>そうまばやし</sup>で普通<sup>みづう</sup>に見られ、屋間<sup>むら</sup>、樹液<sup>じゆえき</sup>に集まる<sup>あつ</sup>ほか、夜<sup>よる</sup>になると光<sup>ひかり</sup>にも飛んでくる。



○チャバネアオカメムシ

体長<sup>たいちよう</sup>10～12mm。体<sup>からだ</sup>は黄緑色<sup>きみどりいろ</sup>で、翅<sup>はね</sup>が茶色<sup>ちやいろ</sup>だが、全体<sup>ぜんたい</sup>が褐色<sup>かつしよく</sup>のものもいる。雑木林<sup>そうまばやし</sup>のまわりで見られる。色々<sup>いろいろ</sup>な植物<sup>しよくぶつ</sup>の汁<sup>じゆ</sup>を吸い、その植物<sup>しよくぶつ</sup>を弱<sup>よわ</sup>らせてしまう。



○ツヤコガネ

体長<sup>たいちよう</sup>14～19mm。体<sup>からだ</sup>が輝<sup>かがや</sup>いて見えるコガネムシで、体<sup>からだ</sup>の色<sup>いろ</sup>は緑色<sup>みどりいろ</sup>から黄褐色<sup>おうかつしよく</sup>、赤<sup>あか</sup>みの強い<sup>つよ</sup>ものなど様々<sup>さまさま</sup>である。成虫<sup>せいちゆう</sup>は落葉<sup>らくよう</sup>広葉樹<sup>こうようじゆ</sup>の葉<sup>は</sup>を食べる。



○ナミテントウ

体長4.7～8.2mm。色々な色や模様をもつものがあり、模様のないものから19個の黒い点をもつものまでいる。成虫は木の皮の裏などに集まって冬を越す。アブラムシ（植物の汁を吸って弱らせる）を餌にする人の役に立つ虫。



○ニイニゼミ

体長20～24mm。生きている時は全身が白っぽい粉で覆われているが、頭と胸は灰褐色。幼虫や抜け殻には泥がついている。



○ヒゲナガカメムシ

体長8～9mm。体は、よく光を跳ね返す黒褐色で、太い前脚をもつ、細長いカメムシでひげが長い。エノコログサやメヒシバなどのイネ科植物やスゲ類の莖で汁を吸う。



○ヒメカマキリモドキ

体長<sup>たいちよう</sup>23~24mm。見た目はカマキリに似ているが、ウスバカゲロウのなかまに近い。  
幼虫はクモの卵を食べ、成虫はカマキリと同じく他の小さな昆虫などを食べる。



○ヒメカメノコテントウ

体長<sup>たいちよう</sup>3.0~4.6mm。体は黄色で黒色の模様があるが、黒い部分がなくなって全体が黄色いものから、逆に全体が真っ黒になったものなど色々なものがある。アブラムシ（植物の汁を吸って弱らせる）を餌にする人の役に立つ虫。



○フタホシアトキリゴミムシ

体長<sup>たいちよう</sup>5mm くらい。木の上ですむゴミムシで葉の上に見られるほか、花にも集まる。硬い翅は黒色で真ん中あたりに2つの黄色い模様があるほか、翅の先は少しわかりにくいが黄褐色の部分がある。





○ベッコウハゴロモ

体長 9～11mm。翅は、黄褐色～茶褐色で2本の白い模様があり、白い模様の間には1対の黒い点がある。幼虫は白い糸くずのようなものに覆われている。クズやウツギなどの葉の上で見られる。



○マガリケムシヒキ

体長 15～20mm の小型のムシヒキアブ。他のムシヒキアブと比べて体がほっそりしている。脚全体が黄色くなるのが特徴。



●参考文献●

- ・黒沢良彦，日高敏隆 編（1967）原色昆虫百科図鑑．小学館．
- ・上野俊一，黒澤良彦，佐藤正孝 編著（1985）原色日本甲虫図鑑（II），保育社．
- ・黒澤良彦，久松定成，佐々治寛之 編著（1985）原色日本甲虫図鑑（III），保育社．
- ・林匡夫，森本桂，木元新作 編著（1984）原色日本甲虫図鑑（IV），保育社．
- ・岡島秀治，海野和男（1983）自然観察シリーズ 15 <生態編> 日本の甲虫．小学館．
- ・友国雅章 監修（1993）日本原色カメムシ図鑑．全国農村教育協会．
- ・石原保 監修（1983）学研生物図鑑 昆虫 III〔バッタ・ハチ・セミ・トンボほか〕．学習研究社．
- ・伊藤修四郎，奥谷禎一，日浦勇 編著（1977）原色日本昆虫図鑑（下巻）全改訂新版．保育社．
- ・梶真史（編）（2013）ポケット図鑑日本の昆虫 1400 2.トンボ・コウチュウ・ハチ．文一総合出版．